

法
76

神戸市水道辯惑論
全

301107-000-4

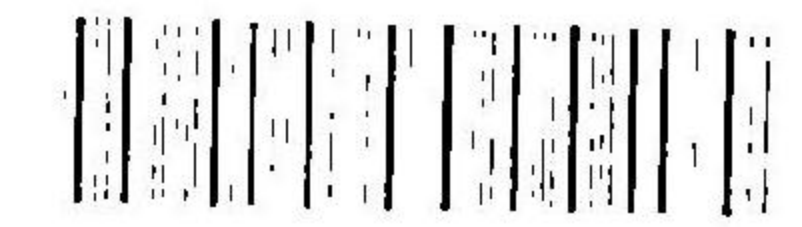
法-76

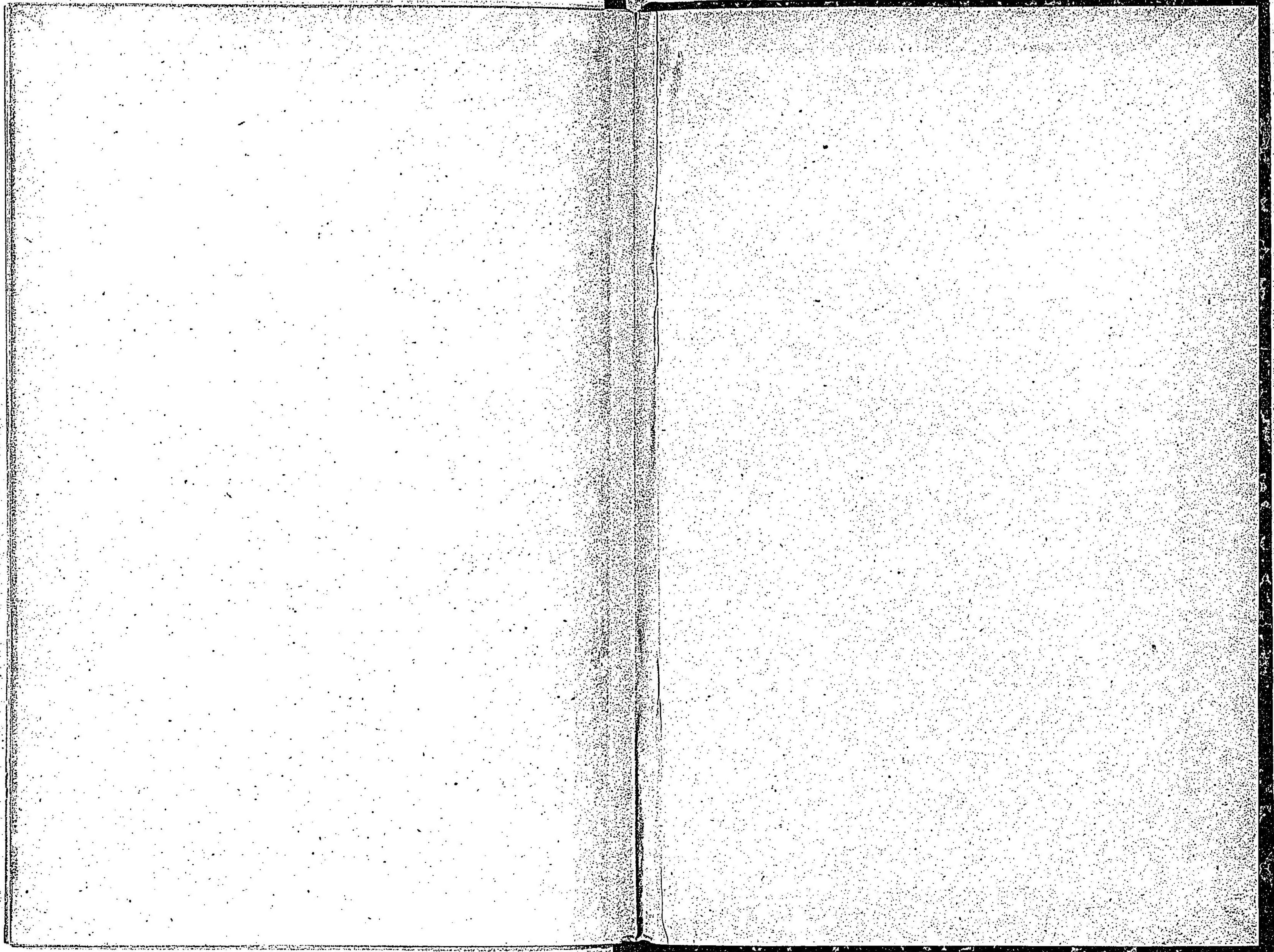
神戸市水道辯惑論

友成徳次郎

M26.2

CDB-0001





1924/10/10

神戸市水道辯惑論

緒言

本市水道ノ畫策アルヲ既ニ久シ今日ニ至リ漸ク實際ノ

問題ト大リテ之レカ實施法ヲ議スルマテニ着ク其歩ヲ

進メタルハ神戸全市ノ爲メニ祝スヘキナリ生等不敏ヲ

以テ異日市會ノ推舉ニ據リ一大偉業ニ對スル調査ノ重

荷ヲ負フコトヲ生等驚鈍固ヨリ其任ニアラスト雖

モ自ラ責任ヲ重ク顧ミ夙夜ニ匪弛シ心ヲ竭シ之ヲ措

置シ以テ市會ノ意見ニ背カス市民ノ瞻望ニ副ハシテ

期セリ

回顧スルニ過ルニ廿年以來數星霜ノ間本市水道事業調査

ハ周到細密ヲ尽シ今ヤ漸ク完結ヲ告ケ市會ノ審議ニ上

ル時機ハ特ニ且夕ニ迫レルモノ、如シ豈ニ壯快ナラズ



ヤ唯夫レ本事業タル固ヨリ偉大ナリ向後多少ノ異論ヲ
入シ若シ苟モ之レカ得失如何ヲ極メントセハ反覆事實
ニ顧ミ千慮萬考ノ後ニアラサレハ輒ク斷スヘカラサル
ハ論ヲ俟タサルナリ然ルニ近頃親友桃木武平氏ハ未タ
之レカ結果精細ナル水道議案ニ接セサル以前ニ於テ氏
ノ機敏ナル速クモ自己ノ推想ヲ編著シ市内縣會市會議
員ヲ初メ有志諸氏ヘ配付セリ而メ氏ノ方策タル深ク事
實ノ審察ヲ極メサルカ故ニ往々粗漏ヲ免カレヌ又謬妄
ノ甚シキ或ハ玉石ヲ混シ黑白ヲ辯別セサルカ如キモソ
鮮少ナラス之レ獨リ氏ノ爲ニ惜ムノミナラス萬一事實
ヲシテ氏ノ方策ノ如ク誤認シ虚ヲ以テ實ヲ傳フアラハ
既往數年ノ調査ハ終ニ無効ニ歸シ本市百年ノ大計ヲ誤
リ生等同胞十有余万ノ幸福ト本市將來ノ旺盛ヲ保ツコ

能ハサルヲ憂慮ス生等敢テ辯ヲ好ムニ非サルモ勢ヒ默
過スルニ忍ヒス不得止茲ニ事實ヲ證明シ聊カ主要ノ点
ニ就テ其惑ヲ解カントス生等豈他意アラシヤ讀者請フ
之ヲ諒セヨ

神戸市水道辯惑論

目次

第一章 水道と下水ノ關係……………一

第二章 利水ノ措置……………四

第三章 公債事業……………六

第四章 給水事業ニ公債發行ノ必要……………七

第五章 給水事業ノ必要……………八

第六章 市公債ノ効果……………十一

第七章 市公債應募說……………十二

第八章 公債發行ト本市ノ金融……………十三

第九章 給水需用……………十五

第十章 給水需用ノ歩合……………十六

第十一章 水道布設費……………十八

第十二章 水道布設新方策……………二十一

第十三章 葺合部水利……………二十三

第十四章 貯水池……………二十四

第十五章 補償金配當……………二十五

第十六章 山林寄附……………二十六

第十七章 水利收用ニ係ル代償方法……………二十七

第十八章 水道ノ緩急……………二十八

終

第壹章 水道ト下水ノ關係

桃木氏ノ方策ニ曰ク神戸市中上水ヲ先ニシ下水ヲ後ニスヘキ地ト下水ヲ先ニシ上水ヲ後ニスヘキ地トアリ其一例ヲ舉レハ仲町部兵庫部ハ下水ヲ先ニスヘキノ地ト看倣シ神戸部ハ土地高燥ナレ水質不良或ハ飲水量乏シクシテ上水ヲ先ニセザルヲ得サルモノトス之レ衛生上利害ヲ異ニスル所ナリト云フ右ハ如何ナル調査統計ニ基キ市内衛生ノ利害ニ異ナルヲ知り各部上水ト下水ノ先後ヲ論セシカ若シ反對者ノ云フカ如ク仲町部兵庫部ハ上水ニ先テ下水ノ改造ヲ爲スヘキモノトスルモ我神戸全市ハ過ル廿年以來各縣ニ率先シ敢テ兵庫ト神戸ヲ問ハス年々歳々之レヲ改良施設セルカ故ニ目下既ニ凡七八分通りハ竣功ヲ告ケタリ而シテ既往ハ勿論今後ト雖モ毫モ遠巡濞漫ニ附スルノ事實ナシ果シテ然ラハ殊更今日ニ及ンテ本市下水改造ノ先後ヲ論スルノ必要ナキハ昭々タリ尙試ミニ當初改良ニ着手以來之レカ下水溝改築費ニ消用セシモノヲ左ニ掲ケ以テ其迷ヲ解カシ

明治廿年 度	金千八百四拾五圓九拾三錢貳厘
全 廿一年度	金四千九百六拾圓貳拾壹錢五厘
全 廿二年度	金三千九百四圓九拾六錢三厘
全 廿三年度	金三千九百三拾貳圓七拾四錢
全 廿四年度	金四千貳百九拾七圓三拾八錢貳厘

全 廿五年度 金千六百貳拾四圓四拾九錢九厘
 合計 金貳万五百六拾五圓七拾三錢壹厘

右ノ外通常土木費ヨリ急要改築ヲ施シタル下水溝渠費凡四分ノ一内外アリ依テ之ヲ總計スレハ本市下木溝渠ノ改築ニ消費セシ金額貳万五千圓以上ナルヲ知ルヘシ

加之明治二十四年度ニ於テ市内全般ノ平面ヲ實測シ之レカ地圖ヲ製シ縱横道路溝渠ノ幹線ヲ明ニシ尙水準ヲ測量シ土地ノ高低ヲ詳悉シ本市將來人烟繁殖ヲ告クル場合ニ於テ之レカ排水路ノ適否ヲ豫メ今日ニ計畫スルノ必要ヲ感シ變ニ費金九百八拾圓ヲ支出シテ之ニ充テ以テ專門ノ技師ニ托シ技手ヲ雇入既ニ其準備ヲ爲スニ非ズヤ本市カ現在ト未來ト間ハス下水改良ノ點ニ施シタルモノ決シテ遺憾ナシト信セリ又反對者カ獨リ神戸部ヲ以テ水質不良或ハ飲水量乏シキト認メタル原因ハ蓋シ事實ニ就テ之ヲ証スルモノアラサルヘシ仲町部兵庫部ハ果シテ神戸部ノ如クニアラザルカ左ニ廿二年四月市内井水試験ノ結果及廿五年三月水報第五號井水需用ノ完否調ニ基キ全ク反對者ノ臆測ニシテ架空ノ言ナルヲ証セントス

井水試験成績表 二十一年四月

部名	飲用ニ善シ	飲用ニ障リナシ	濾テ飲ムヘシ	煮テ飲ムヘシ	飲メハ害アリ	井戸個數
神戸	四九	四	二六	二、六三六	七二七	三、四三二

部名	計	完井	不完井	潮水井	乾涸井	計	買水戸	貫水戸	計
濤東	三二二	二二	二四	一一	六	三、四一六	一、三二七	四、七八四	二、六九六
濤西	二〇五	六八	六七	七、九五三	二、七一九	一〇、九二二			

備考

直ニ飲用ニ適スル井戸ハ(飲用ニ善シ)(飲用ニ障リナシ)ノ兩欄ノモノニ過キス然レモ(濾シテ飲ムヘシ)トアルモノ飲用ニ適スルモノト見做シ左ニ各部ノ適否歩合ヲ示ス

神戸 飲用適井百分ノ二、三強 飲用不適井百分ノ九七、七
 濤東 同 百分ノ四、〇八強 同 百分ノ九五、九二
 濤西 同 百分ノ一、〇七弱 同 百分ノ九八、九三

市内井水需用完否調

部名	井水種別				計	需水戸別		計
	完井	不完井	潮水井	乾涸井		買水戸	貫水戸	
葦合川西部	六一	二四八	八	一三八	九〇五	〇	七三八	一七三八

全 廿五年度 金千六百貳拾四圓四拾九錢九厘
 合計 金貳万五百六拾五圓七拾三錢壹厘

右ノ外通常土木費ヨリ急要改築ヲ施シタル下水溝渠費凡四分ノ一内外アリ依テ之ヲ總計スレハ本市下木溝渠ノ改築ニ消費セシ金額貳万五千圓以上ナルヲ知ルヘシ

加之明治二十四年度ニ於テ市内全般ノ平面ヲ實測シ之レカ地圖ヲ製シ縱横道路溝渠ノ幹線ヲ明ニシ尙水準ヲ測量シ土地ノ高低ヲ詳悉シ本市將來人烟繁殖ヲ告クル場合ニ於テ之レカ排水路ノ適否ヲ豫メ今日ニ計畫スルノ必要ヲ感シ幾ニ費金九百八拾圓ヲ支出シテ之ニ充テ以テ專門ノ技師ニ托シ技手ヲ雇入既ニ其準備ヲ爲スニ非スヤ本市カ現在ト未來ト間カス下水改良ノ點ニ施シタルモノ決シテ遺憾ナシト信セリ又反對者ヲ獨リ神戸部ヲ以テ水質不良或ハ飲水量乏シキト認メタル原因ニ蓋シ事實ニ就テ之ヲ証スルモノアラサルヘシ仲町部兵庫部ハ果シテ神戸部ノ如クニアラサルカ左ニ廿二年四月市内井水試驗ノ結果及廿五年三月水報第五號井水需用ノ完否調ニ基キ全ク反對者ノ臆測ニシテ架空ノ言ナルヲ証セントス

井水試驗成績表 二十一年四月

部名	飲用ニ善シ	飲用ニ障リナシ	濾テ飲ムヘシ	煮テ飲ムヘシ	飲メハ害アリ	井戸個數
神戸	四九	四	二六	二、六三六	七七七	三、四三二

部名	計	計	計	計	計	計
濑東	二二	五三	三五	一、九〇二	六八五	二、六九六
濑西	三四	一一	六	三、四一六	一、三一七	四、七八四
計	一〇五	六八	六七	七、九五三	二、七一九	一〇、九二二

備考

直ニ飲用ニ適スル井戸ハ(飲用ニ善シ)(飲用ニ障リナシ)ノ兩欄ノモノニ過キス然レモ(濾シテ飲ムヘシ)トアルモノ飲用ニ適スルモノト見做シ左ニ各部ノ適否歩合ヲ示ス

神戸 飲用適井百分ノ二、三強 飲用不適井百分ノ九七、七
 濑東 同 百分ノ四、〇八強 同 百分ノ九五、九二
 濑西 同 百分ノ一、〇七弱 同 百分ノ九八、九三

市内井水需用完否調

部名	井水種別			計	需水戸別		計
	完井	不完井	種別		買水戸	賃水戸	
蘇合川西部	六一	二四八	二八	一三八	九〇五	〇	一七三八

神戶部 居留地共	三、五二六	六八一	五一四	一六九	四、八九〇	五五六	一、〇九四	一、六五〇
湊東部	二、六四八	七二八	六	一四四	三、五二六	七八	一、七九一	一、六六九
湊西部	三、九〇七	一、〇八九	六〇二	一七	五、六一五	五〇八	二、二二九	二、六三七
計	一〇、六九二	二、六四六	一、一三〇	四六八	一四、九三六	一、一四二	五、七五二	六、八九四

備考

完井ト不完井ノモノ左ニ各部ノ歩合ヲ示ス

葺合 完井十分ノ六、七五強 不完井十分ノ三、二五

神戸 同 十分ノ七、二一強 同 十分ノ二、七九

湊東 同 十分ノ七、五一弱 同 十分ノ二、四九

湊西 同 十分ノ六、九六弱 同 十分ノ三、〇四

第二章 利水ノ措置

桃木氏ハ水利ノ点ニ付テ云々セリ其要ニ曰ク葺合部ハ飲水ニ不便ヲ欠ス又將來水道ニ依テ利益ヲ受ケスシテ斯ク從前自然ニ得來ル水利ヲ他ノ部分ニ收得セラレ又水道ノ利益モ受サルニ水道工事費ノ負擔

ヲ負ハザル可カラサルコトナレハ此部内ノ市民ノ不幸之ニ越スヘキモノナシト云ヘリ
 依之觀是桃木氏ハ葺合部ヲ給水區域外ニ置クモノト想像セシナランモ本市計畫ノ給水區域ハ神戸全市ナルコトヲ知ルヘシ然レモ實施ノ緩急ヲ察シ葺合部ノ一半新生田川以西ハ既ニ稍人家稠密セルヲ以テ今般ノ實施區域内ニ編入セシモ新生田川以東ノ如キハ人家箇々散在シ現時此地ニ水道ノ急施ヲ必要トセザルカ故ニ之ヲ後年ニ譲リ給水ノ欠ク可カラサル時機ヲ俟テ施行セントスルニアリ然リ而シテ右等施設ノ緩急ハ獨リ全部ニ限ラス湊東部荒田村耕地及兵庫港地方ノ如キ皆ナ此方針ニ依ルモノトス故ニ若シ兵庫港耕地ニシテ自然人家稠密ノ期葺合川東ヨリ遅延スルハ其際地區ヲ交換シ實施ヲ前後スルモ敢テ至難ノコトニ非ス故ニ反對者ノ説ノ如ク將來水道ニ依テ利益ヲ受ケスト云フコト能ハサルヤ明ナリ
 水利ヲ他ノ部分ニ收得スルハ事實ナリ然レモ之レカ爲メニ補償スル費金不少之レ相當ノ代金ヲ以テ水利ヲ購買スルモノニ外ナラス蓋シ公利公益ノ爲メニハ止テ得ザルモノニシテ社會百般ノ事必シモ有利無害ナルコトヲ期ス可カラス一得アレハ一失ヲ免カレサルモノ往々アラン唯本件ノ如キ水利收用上得失相償ヲ得テ更ニ大ナル不幸ヲ見サルハ其方法ノ公平ナルニ因ラスンハアル可カラス殊ニ同地方ニ於テ發
 ニ新道ノ計畫ヲ起シ百事地方ノ改良進捗ヲ促シ以テ將來土地ノ旺盛ヲ企圖スルモノニ對スレハ寧ロ僥倖ヲ受クルモノト謂ハサル可カラス加フルニ水道ノ實施ヲ他年ニ譲リタル葺合村川東ノ部ニ於テ水道水源ノ瀧谷ニ據リ灌溉ヲ受クル耕地ハ僅ニ一部分タルニ過ギサレハ假リニ反對者カ云フカ如ク爲スモ決シテ

葦合全部カ水道ノ利益ヲ受ケズシテ水利ヲ他ノ部分ニ收得セラル、モゾニ非ス況ンヤ前陳ノ事實アルニ於テ乎故ニ葦合部民ノ不幸ナキノミナラス之レカ處置ノ毫モ不公平ニ非サルヲ証スルニ充分ナラン

又曰ク反對者ハ葦合部民ノ水道ノ利益ヲ受ケサルニ水道工事費ノ負擔ヲ負ハサル可カラサル事ナレハ此部内ノ市民ノ不幸之ニ越スヘキモノ世ニナカラント迄ニ極論セリ若夫レ反對者カ妄想ノ如キ事實アラハ此極論モ理由ナキニ非スト雖モ我神戸市水道ノ計畫ハ第一工事ノ區域外ニアル葦合川東市部ニ水道工事費ヲ賦課セサルノミナラス水道經濟ハ一厘モ市税ニ賦課セサルヲ以テ市民何人モ此工費ヲ公税ニ負擔スルモノナシ説テ茲ニ至レハ反對者モ亦前説ノ擔憂タルヲ自カラ釋然氷解スヘキ

第三章 公債事業

桃木氏ハ夫レ一國ニ公債ヲ募集セントスル事ハ歐米何レノ國ト雖モ普通ノ場合ニアラスシテ例ヘハ宣戰購和ノ場合ニ其國ヲ平定セントスル時ハ何レノ國ト雖モ其政府國庫ヲ限リアル資金ニテハ逆モ及フ所ニアラサレハ此ノ如キ場合ニ於テ國公債ヲ募集シテ其國政府ノ目的ヲ達スルモノナレモ平素普通ノ事業ヲ起サント企テ巨額ノ公債ヲ募集スルカ如キ事屢々アレハ其國ノ財政ヲ保ツ事難カル可シ云々ト云ヘリ

桃木氏ノ説ハ毎々偏頗ヲ議論タルヲ免カレス氏ノ公債ヲ募集セントスルヤ普通ノ場合ニアラストシテ宣戰購和ノ場合ニ國庫資金ノ及ハサルモ之レカ必要アルヲ説クモノ、如ク而シテ他ニ必要アル例ヲ明言

セザル蓋シ自説ニ不利ナルカ爲メ故サレニ之ヲ避ケタルカ將タ國債ト地方債ノ別ヲ知ラサルニ外ナラス夫レ英國カ米國獨立戰爭ノ時ニ非常費ヲ辨セシハ公債ヲ以テシ佛國カ普國ニ敗シテ償金ヲ拂フ爲メニ公債ヲ募集シタルモノアリト雖モ平時ニ於テ公益ナル事業ヲ爲メニ一國ノ公債ヲ以テ其費用ヲ辨シタルモ其例少カラス蓋シ公益ノ事業ニシテ必ズ政府ノ起スヲ要スルモノハ政府力ヲ出シテ之ヲ行フヘクシテ若シ不急無用ノ事ニ非サレハ必ズ利益ヲ生セサルヲナシ故ニ眞ニ公益アル事業ハ一國ノ生産力ヲ増進スルヲ以テ其費用ヲ辨スルモ其利ハ公債ノ害ヲ償フテ餘アルヘシ濠州公債ノ如キハ皆公益ノ土木費用ニ供セシモノナリト云フ其他英佛二國市町村ノ公債額ノ巨多ナルヲ反對者ハ知ラサルカ

第四章 給水事業ニ公債發行ノ必要

桃木氏ハ反對ノ要ニ曰ク地方自治体ニ於テハ天災地變其他非常ノ場合ニ於テ普通市町村費ニ依テ迎モ救治ノ策ナキ場合等ニ於テ自治体公債ヲ發行シテ以テ其市町村ノ行政事務ヲ救治スルモノナラン今茲ニ給水ノ一事業ヲ企シカ爲メニ公債ヲ發行スルト云フ如キハ公債發行ノ原理ニ背反ス下云ヘリ

桃木氏ハ神戸市給水事業ヲ以テ普通事業ト誤認セシノミナラス公債ノ原理ヲ知ラサルモノナラン本邦市町村制ノ發布ニ際シ曾テラードゲン氏カ講説ヲ左ニ示シ聊カ反對者ノ蒙ヲ啓カン

市町村ノ公債ハ如何ナル場合ニ於テ之ヲ起スベキヤト問フニ第一ニ非常ノ事業アリテ巨大ノ出費ヲ要スルニ當リ經常收入就中ニケ年分ノ租税ヲ以テ之ヲ支辨セントスルヲ納税者ノ痛苦トナルヘキ恐レア

ル場合ニ於テ之ヲ爲スモノトス第二ニ市町村ノ爲メ直接若クハ間接ニ利益ヲ生ズル等ノ造營物ヲ設ケ
 シトスル場合ヨリモ屢々生來スルモノニシテ寧ロ重大ノ關係アリトス而シテ其直接ニ利益ヲ生ズル等ノ
 造營物トシテ論シタル經濟上ノ作業(水道、瓦斯、電氣燈)ニシテ其公債ノ元金償還利子支拂ニ要スル
 金額ヲ自ラ産出スルモノヲ云フ又間接ニ利益アル造營物トハ直ニ市町村ノ財産ヲ増加セスト雖モ市町
 民ノ資力ヲ高ムルモノヲ云フ例之ニ衛生上ノ施設改良交通上ノ施設(道路溝渠港灣)改良之如キハ地價
 ヲ騰貴セシメ工商業ヲ振起シ以テ間接ニ市町村ニ利益ヲ與フルモノナリ

第五章 給水事業ノ必要

桃木氏ハ大坂東京ノ如キハ全市悉皆飲料水ニ欠乏シ且水質不良ニシテ衛生上不便ヲ感スルノミナラス
 近年々々出火夥多ニシテ其損害非常ニ多額ナリ云ヘハ如此場合ニ要スル水道改良工事ハ天災ヲ救治スル
 場合ト全權ニテ市公債ヲ發行スル事ハ敢テ不可ナラン又京濱坂神ノ四市出火度數ヲ比較スルニ神戸
 市ハ少數ナリ依テ市公債ヲ發行シテマテ如此工事ヲ急施スヘキ場合ニアラサル事ヲ論シ尙亦公債償還
 法ニ關シ當時ノ橋本市會議長ノ演說ヲ採録セリ

桃木氏ハ說クカ如ク大坂東京ノ概シテ飲料水ハ不良ナルヲ己ニ之ヲ知ル然レモ反對者ハ事實ヲ証セサル
 ハ或ハ猶想像ノ記事ニ過キサルヘシ然レ而シテ我神戸市ハ幸ニシテ未タ東京大坂ノ如キ飲料水欠乏シ且水
 質ノ不良甚シカラストスルモ神戸市ハ京坂ニ比シ其差如何ナルカヲ審ニセザレバ該地ニ同視シ若シクハ

之ニ準スルノ不可ナルヲ知ルニ由ナラン偶々出火ノ統計ヲ示シ其歩合ヲ算出セリ本市カ京坂兩地ニ比
 シ既徑出火度數ノ少數ナルハ事實ニシテ偶然ノ僥倖ト云ハサルヲ得ス然レモ若シ既徑右等ノ少數ナルヲ
 以テ必ス將來モ少數ナリト云フニ至テハ俱ニ論ス可カラサルナリ

夫レ東京市民カ飲用水及雜用水トシテ汲ミ來ル所ノ水源ニ二種アリ一ハ多摩川、神田川等ノ上水井ニシ
 テ一ハ堀井是ナリ日本橋、神田、京橋等所謂下町ト稱スル各區内ニ於テハ大抵飲用水ハ上水井ヨリ汲來リ
 雜用水ハ堀井ヨリ汲來レリ中ニハ上水井ノミヲ以テ兩用ヲ辨スル者モアリ之ニ反シテ麻布、赤坂、牛込、
 本郷等所謂山手ト稱スル各區ニ至リテハ多クハ堀井水ヲ以テ飲用及ヒ雜用ノ兩用ニ供シ上水井ヨリ汲來
 ルモノハ其數甚タ少ナシ曾テ警視廳ノ調査ニ係ル同市十五區内ノ堀井數及ヒ上水井數ノ總計ヲ表示スル
 一左ノ如シ

東京市十五區

堀井數	貳万五千拾個
上水井數	五千三百八拾壹個

依之觀是ハ堀井ノ數ハ上水井ニ五倍スルモノナリ去ル明治二十年頃東京府衛生課ニ於テ調査セシ堀井水
 質試験ノ成績ヲ見ルニ試験堀井數四千五百二十四個(但シ下ノ内千八百六十一個ハ飲料ニ適シ二千六百
 六十三個ハ飲料ニ適セスト云ヘリ)之ヲ以テ山手ノ堀井ヲ推斷スヘカラサルハ勿論ナレモ要スルニ貳万五

千個ノ堀井中ニ水質不良ニシテ飲料ニ適セサルモノ多カルヘシ我神戸市飲料水之ニ對シ果シテ如何ナル
差アルカ前章水道上下水ノ關係ノ部ニ於テ井水試驗ノ成績ニ照セバ反對者ト雖モ思ヒ半ニ過キン
反對者ハ我神戸市飲料水ノ不良ナルヲ東京市ニ譲ラサルヲ如此ナルヲ知ラハ天災ヲ救済スルト同視シテ
東京ト均シク市公債ヲ發行シ一日モ速ニ水道ヲ實施セサル可カラスト云フナラン然レモ之ヲ天災救済ニ
比スルヤ甚タ不可ナリ今ヤ反對者カ吾輩ノ解説ニ依テ迷ヲ悟リ水道ノ急務ヲ要スルハ必ス一ニ出テント
雖モ抑モ我神戸市カ數年來畫策セル水道ノ要ハ本市飲料ノ水質不良ニシテ且欠乏ヲ告ケ隨テ人生ノ最モ
貴ク入キ天壽ヲ保ツ能ハサルノミナラス防火上ノ備ヘ周到ナラス後世子孫ニ遺ス重ンスヘキ財産ノ安全
ヲ欠キ本市カ幸福ヲ増進スルノ目的ニ背クコトアルカ所以ニシテ反對者カ援引セシ楠本市會議長カ公債償
還法ト共ニ演說ノ所謂水道ヲ改良シ各戸ニ用水ノ便ヲ與ヘ各町ニ防火ノ栓ヲ備ヘ又一般市民ヲシテ健康
ノ樂境ニ栖息セシメ且市ノ基本財産ヲ造立シテ長ク後世ノ一要物ヲラシムル計畫ト云ヒ又曰ク抑水ノ善
惡ハ我市民百二十有餘万ノ健康ニ至大ノ關係ヲ有スルカ理ヲ最モ親易キモノニシテ而シテ空氣食物ヲ殆
ト輕重ナカレハ必ス果シテ清潔氷リ社會ニ必要ナルヲ感セハ同胞爭テカ奮テ之ヲ贊成セサルコトを得シヤト
云フニ適シ我神戸市水道ノ目的已ニ如此請フ反對者少ク反省アラントナ
若シ夫レ公債償還法ニ至テハ反對者ノ楠本市會議長ノ演說ニ拘泥スルモ甚シト云フニ加之楠本市ヲシテ
此言ヲ發セシメタルモノハ東京市收入豫算ヲ如キ大體ノ概算ニシテ豫算ニ對シ今一層概括セシ豫算タル

ニ過キス換言スレバ甚タ不安堵ノ計算ナルカ故ニ万一ヲ保シタルニ外ナラス何レノ時モ右等財産ヲ要ス
ルト云フニ非ラザルヤ論ヲ竣タス何ントナレハ抑モ一個人カ不時ニ費用ヲ要スルトキハ其所有ノ動産不
動産ヲ賣却シテ必要ノ資本ヲ得ヘシト雖モ政府ハ賣却スルヲ得可キ財産ヲ有スルモノニ非ス固ヨリ多少
家屋森林等ヲ有ス下雖モ此等ノ財産ハ自由ニ賣却スルコト能ハス又各國ノ内三嶺山鐵道等ヲ賣却シ或ハ之
ヲ抵當ト爲シ負債ヲ起スコト必ス無之ト斷言セサルモ政府右等ノ處置ニ出ルアラハ實ニ止ヲ得サルモノ
ニシテ財政上尤得策ニ非サルナリ故ニ財政整理シテ信用厚キ政府ノ如キハ之ヲ行フモノアルヲ聞カス唯
財政紛亂信用薄弱ナル政府ニ於テ已ムヲ得スシテ之ヲ行フアルノミ殊ニ云フ反對者ノ說ハ毫モ採ル可カ
ラス如何トナレハ償還方法ノ確實ト否トヲ極メスシテ徒ニ償還法ノ處理ヲ論シタルモノニシテ之ノ杞人
ノ憂タルヲ免カレサルモノナリ

第六章 市公債ノ効果

桃木氏カ地方自治体ノ市公債ハ其信用政府公債ノ如ク區域廣潤ナラス政府諸種ノ保證金トナスヲ得ス
日本銀行ノ擔保品タラサルヲ以テ運命ハ薄弱ト論シ又東京市公債ハ政府公債同様國立銀行營業本務ニ
屬スヘキ特許ヲ得タルモ他ノ自治体公債ハ之レト同様ノ特許アルヤ否ヤヲ杞憂セリ
桃木氏カ反對セル市公債ニシテ國立銀行紙幣發行ノ保證トナラサルハ國債ト異ナル所以ニシテ日本銀行
ノ擔保品如何バ目下未定ノ問題ナリ反對者ハ此兩者ヲ以テ市公債ノ運命薄弱ト論ズルハ一ヲ知テ未ダ其

ニテ知ラサルモノト云フヘシ何ソトナレハ地方公債ハ其公債ニ依リテ得タル處ノ資本ヲ投シテ成熟シタル事業ヨリ年々收入スヘキ利益モ豫シメ算定シ得ヘキヲ以テ償却ノ方法モ亦豫シメ決定スルコトヲ得ルハ地方債特殊ノ性質ニシテ彼ノ國債ヲ起ス場合ノ戰爭方ニ耐ニシテ將來尙ホ幾多ノ負債ヲ要スヘキハ測リ知ルコ能ハス況ンヤ其償却ノ方法ノ如キ全ク豫定ノ方案ナクシテ募ル場合ノモノニ比スレハ權利者義務者下モ安心ノ程度實ニ同日ノ論ニアラサルナリ況ンヤ現行市町村制ノ如キハ三十年限リ償還スヘキノ制限アルヲ以テ國債ノ如ク永遠ニ流ル、ノ憂モナシ勿論確乎タル基礎アル公債ハ却テ永ク償却セラレザランコト望ム者ナキニ非スト雖モ是レ其公債ノ性質善良ニシテ堅ク信用ヲ置キ得ルモノニ限ル而シテ權利者ハ其期ニ至リ元資ヲ償却セラレ、ノ後亦之ヲ他ノ途ニ使用スヘキヲ以テ償却ノ目途不確定ノモノニ比スレハ權利者ノ便利大ナラン果シテ然ラハ此種ノ地方公債ハ最トモ公債中ノ善良ナルモノト云ハサルヘカラス又地方自治体ノ市公債ハ東京市公債ト同一タルヤ否ヤハ明治九年第六號布告國立銀行條例第五章及全十五年第三十二號布告日本銀行條例第十一條ノ六項ニ據リテ之ヲ觀レハ市公債ハ茲ニ包含セスト云フヲ得ス現ニ過般大阪市ヨリ其筋ヘ經同セルモノ實ニ此旨趣ニ外ナラス故ニ敢テ東京市同一ノ特許ヲ受クルヲ得ヘキカ否ヤハ取越苦勞ノ甚シキモノト云ハサルヘカラス

第七章 市公債應募說

桃木氏ハ東京ノ公債應募ノ好況ヲ呈シタルハ當時金融緩漫ナルト政府公債償還期ニ際スルノ故ナリ大

坂ノ他地方ヨリ申込高割合ニ少額ニシテ其市ノ應募者非常ニ多キハ自己ノ其市ヲ監督スルヲ得ヘキ故ナリト云ヘリ

桃木氏カ云フ如ク東京應募ノ好景況ヲ呈シタルモノ或ハ右ノ理由ニ據ルナラン然レハ向後果シテ本市カ公債ヲ募集スルニ當テモ又同一ノ好況ヲ呈スルヤ敢テ之ヲ疑ハス何ントナラバ吾人ハ敢テ内地ニ資本ナキト認ニス只其停滯シテ動カサルヲ知ル最モ近來頗リニ有益ナル新事業ノ勃起スルカ如キモ未タ以テ充分ニ整居セル資本ヲ驅リ出スニ至ラサルナリ故ニ一度ヒ國債ト地方債トヲ問ハス募集ノコトヲ發スルハ相鏡フテ之ニ應スルヤ既往ニ徵シ明晰タリ試ミニ既ニ募集濟ノ右等市公債ニシテ現今市場ノ價格如何ヲ見ルニ募集期ニ勝ル價格ヲ有セリ即近時ノ取調ニ據レハ額面百圓ニ對シ東京ハ百八圓大坂ハ百七圓ニシテ毎百五圓ヲ降ラス果シテ然ラハ獨リ募集期ノ宜シキニ遭遇シタルノミニ非ラサルコトヲ知ルニ足ラン又募集其市ヨリ出ル應募額他ノ地方應募額ヨリ多數ナルハ桃木氏カ想像ノ如キ理由ニ基クニアラス募集市ノ住民ハ他地方ノ住民ヨリ其事業ノ景況一層詳悉セルカ故ニ應募心ヲ發スルモノ、夥多ナルハ自然ノ勢ニシテ又土地ノ遠近ニ據リ便否自カラ之ニ關連スルモノト知ルヘシ氏ノ自己其市ノ監督如何ニアルカ如ク論スルハ自治体ノ公債ヲ發行スル性質ヲ誤解セシモノニシテ苟クモ公債ノ募集ニ應セントスル者ノ精神トスヘカラサルモノナリ

第八章 公債發行ト本市ノ金融

桃木氏ハ神戸市ニ公債ヲ發行スルハ他地方ヨリ應募者少數ニシテ主トシテ市内ニ募ラサル可カラス
然ルルハ金融上影響ヲ及ホスト云フニアリ

桃木氏ハ經濟上ハ眞理ヲ知ル者ト認ムル能ハス若シ如此經濟ノ選用ヲ死物視スルルハ或ハ桃木氏ハ言
當ルキキ金銀ノ常ニ活動シテ東西ニ出入セリ故ニ金錢ニ疆域ハナキモノト云フノ理ヲ極メサル可
功ラズ假リニ疆域ノ有リトスルモ公債應募額金額ハ重ニ或ルニ種ノ金筋ヨリ出ルモノニシテ商業
資金ヲ直ニ公債証書ニ轉換スルモラザルニシ且少東京大阪ノ公債募集ニ際シ其應募者ハ該市民ニ多
キヲ以テ本市モ亦然リトスルニ至テハ速ク云ハサル可ク何ナレバ時期其他ニ於テ種々事情ア
ルハナリ然レ共ニ例ヲ舉グレバ東京大阪各第一回募集時期ハ如其月ヲ同クスレバ遠々他地方地ニ需因ルチ
要セズ各々其市ノ募集ニ應ジテ結果ナレバ如キ是レナリ然レ共本市債ヲ發行スルニ方ニ應募額ハ大部分
ハ蓋シ本市ニ非ズシテ却テ多數遊金ヲ蓄積スル他地方ニ在リテ積込ナリ尙ホ若シ半歩モ百歩モ譲リ
小市内ノ金融ニ關係スモノトシテ而反給水事業延期ノ原因ナラザラハ外債ヲ募集スルモ可ナリ況シ率
外債ヲ金筋家ハ極低利率即チ三四厘ヲ以テ入十萬圓ハ萬方圓タリハ本市水道事業ヲ爲スニ出金
難キモナリ云々ハ桃木氏ハ此策ニ據テ其祀愛者者ニ誘ハシテ然レ共ハ一時間接ニ市内金融
通ヲ助ケ直接ニ窮民ヲシテ勞銀ヲ得セシムルノ利益アリト雖モ國家經濟ノ果シテ望ムヘキカ誠者ヲ跋
スシテ知能可キナリ然レ共國庫ニ充テ其市ニ應募者ノ少キハ其市ノ應募額ハ其市ノ應募額ハ其市ノ

第九章 給水需用

桃木氏ハ東京大阪濱濱ノ如キ飲料水ヲ購求スル習慣スル地方ハ其市民悦ンテ給水ノ水ヲ受クルモ本市
ハ大部分ハ給水に需用スルノ難シト云フ可ク其理由ハ

桃木氏ハ必ス水道ノ衛生ニ必要アルヲ知ラシ唯本市井水ノ不良ナルヲ詳ニセザルカ故ニ購買飲用者ノ多
寡ヲ以テ水道需用者ヲ積算セシモノト認ム本市井水ノ不良ナルヲハ既ニ細密ナル統計ヲ掲ケ之ヲ示シタ
レハ今ヤ氏ハ本市全般ニ給水ノ必要ヲ悟リシニ相違ナカルヘシ數十年前ハ兎モ角輓近衛生ノ進歩ニ從
ヒ我同胞ノ健康ニ注意スルコト決シテ昔日ト同一ノ論ニアラズ故ニ水道布設後ハ布設以前ニ思フ如キモノ
ニアラス現ニ既設水道地ノ實況ニ於テ其例乏シカラス現ニ長崎市ニシテ當初水道布設ノ計畫アルヤ深ク
利便ヲ顧慮セズ頻リニ反對ノ運動ヲ爲スモノアリシモノ一朝竣功ヲ奏スルニ至ラハ忽チ迷夢ヲ覺破シ各々
精脆テ純良ノ給水ヲ望ミタリ又横濱ノ如キモ當初飲用ニ害アル堀井ハ斷然埋立シメ又害ハ甚シカラサル
不良ノ井ハ井蓋ヲ設ケ僅ニ撒水用ノミニ使用セシムルハ規定タリシモ水道布設後ハ忽チ惡水飲用者大
増ニ至リ折角制定ノ井戸取締法モノヲ執行シ竣タスシテ疾クニ不用ニ屬シタルハ其實例ナラスヤ試ミニ
思ハ市内各戸往古ヨリ用ヒ來リシ行燈ヲ廢シランプニ代ルモノ其理如何ランプハ行燈ニ比シ光燭アル
ニ據ラン凡テノ事物ノ改良進歩ヲ望ムモノ皆ナズノ如シ況シヤ貴重ノ人命ヲ繫ク純良潔白ナル飲料水ノ
目前ニアルヲ見テ不長ノ井水ヲ飲用セシム欲スルハ五里夫得サルモノ、外無之モノト信セリ

第十章 給水需用ノ歩合

桃木氏ハ水道ニ據リ給水ヲ受クル者ノ便否ヲ喋々シ其未給水需用ノ數ハ市内總戸數ニ對シ專用給水ヲ需用スルモノ百分ノ四分四厘余ト云ヘリ

桃木氏ノ水道ノ利益アリト認ムルモノ之ニ列舉シタルモノニ外ナラストセハ遂ニ專用給水ヲ需用スルモノ、歩合茲ニ出ルナラン況ンヤ氏ハ市街并水ノ殆ント不長ナルコトヲ願ミス僅ニ榮町海岸山手、及兵庫南濱ノ一部民カ困難ノ狀況アルヲ知ルノミナレハ其結果此認算アル怪シムニ足ラサルナリ而シテ水道施設以後直間接ニ種々ノ利便アルコト一々枚舉ニ追マアラスト雖モ就中最モ關係ノ重モナル井水汲取費ハ曾テ長崎ニ於テ細密ニ調査シタルモノアレハ之ヲ左ニ示シ氏カ反省ノ材料ニ供セントス

一金三千百五圓拾七錢五厘
 飲料井貳千三十一個
 係ル一ヶ年ノ諸費

内

- 金五百七圓七十五錢 鈞瓶代
- 金六百九圓三十錢 藁製鈞瓶細代
- 金八百四拾六圓廿五錢 井戸周圍修繕費
- 金千百四拾一圓八十七錢五厘 井戸浚疏費

一金千七百三十五圓
 飲料不適井千貳百個
 係ル一ヶ年諸費

内

- 金三百圓 鈞瓶代
- 金三百六十圓 藁製鈞瓶細代
- 金四百圓 井戸周圍修繕費
- 金六百七十五圓 井戸浚疏費

合計金四千八百四十圓拾七錢五厘
 但シ平均井戸一個ニ付壹圓五十錢

前記計算ヲ以テ當神戸市井數壹万五千三百十三個ニ積算スレハ消費年額ハ實ニ貳万貳千九百六十九圓五十錢ノ多キニ昇レリ之ニ年々ノ井戸新設費ヲ加フレハ頗ル巨額トナラン我神戸全般水道ノ給水ヲ受ケ井水ヲ廢スルハ此巨額ノ費金ハ全ク省カル、モノナリ衛生ト防火上ノコトハ暫ク擱キ苟クモ市民ノ幸福ヲ圖ルモノハ經濟上此一事ヲ以テモ水道ノ必要ニシテ且利益アルコトヲ了解スヘシ

本市水道施設以後ノ經濟ニ關シテハ今一ノ例証アリ桃木氏ハ定メテ記憶スルナラン楠本氏ハ水道改良奏功ノ後ニ至テ減費スヘキ概略ヲ演說セリ左ニ要領ヲ摘記ス

一 飲水購入費六万五千圓ヲ減スルコト

一 土水井水料六万圓ヲ減スルコト

一 堀井上水ヲ浚渫及修繕其他要具等ノ諸費廿三万五千圓ヲ減スルコト

一 井水汲取運搬ノ勞力ヲ省キ且雇人ヲ減スルモノ其費七十萬圓ヲ減スルコト

一 病毒豫防費ハ水道改良後半額トシテ七万七千四百五十八圓ヲ減スルコト

一 消防費ハ水道改良後半額トシテ廿貳万五百圓ヲ減スルコト

一 前各項ノ如キ迂濶ノ計算ヲ以テスルモ其損失毎年百四十萬五千九百三拾四圓ヲ減スルコト

一 已ニ燒失ニ遭ヒ又新築ノ費金ハ凡百万圓ヲ降ラサレヨ

一 飲料水ノ良否ニ依リ大ニ病毒蔓延ノ廣狹ニ關係ヲ有スル虎列拉望扶私等ノ患者數ハ 中畧 上水改良ノ後大ニ其數ヲ減スヘキハ各國都府水道改良後ノ實驗ニ徴シテ疑フ可カラスト聞ケリ夫レ傳染病ノ流行スルヤ當ニ貴重多數ノ人命ヲ失フノミナラス防衛及治療ノ消費額及ヒ或ハ病ヲ避ケテ各地ニ旅行シ又他ノ府縣人カ出京ヲ猶豫スル等市民ノ營業上ニ大ナル影響ヲ及ホスカ如キ之ヲ細論スルルハ枚舉ニ迫マアラサル可シ然ラハ則チ其不便ト損害トヲ除キ去リ生命財産及本市ノ繁榮ヲ安全ニ保護シ得ルハ實ニ水道改良ノ一大舉ニアルノミ左スレハ此工事ニシテ全市ニ大利益ヲ與フルハ明白ナリ云々右ハ獨リ東京市ノミニ限ラス我神戶市モ其理由全一ナルニアラスヤ之レ參考ニ資スル所以ナリ

第十一章 水道布設費

桃木氏ハ水道布設費維持費及ヒ將來償還法ニ就テ左ノ如ク計算セリ

一 金七十万圓 水道布設費

一 金三万圓 水道維持費

此ノ水道維持費ハ歩ヲ讓リ得ヘキ限リ歩ヲ讓リテ横濱等ノ割合ニ比シテ少額ニ見積リタリ

一 金五十八万圓 公債募集額

一 金三万圓 初年市稅補充

一 金三万圓 次年全上

一 金貳万圓 三年目全上

一 金貳万三千圓 四年目以降 毎年全上

一 金廿二万圓 廿九年ヨリ三十七年迄 毎年二万圓宛國庫ヨリ補助

一 金壹万四千八百七十三圓 廿九年水料收入額

一 金貳万八千七百九十七圓 三十年全上

一 金三万六千三百圓 三十二年全上

一 金三万貳千六百八十九圓 三十七年迄 一ヶ年水料收入額

一 金三万六千六百九圓 三十八年ヨリ 一ヶ年全上

四十七年迄

二金四万六千九百九十一圓

四十八年ヨリ二ヶ年全上

二金四十七万七千九拾圓

五十八年ニ於テ償還不足額

右六氏ノ公債募集スルモノトシテ自己ニ計算セシモノナリ

桃木氏カ見込ム所ノ水料收入タル己ニ認算アルヲ前章ニ詳述スレハ其謬妄ノ結果自ラ本案ニ影響スルハ勿論ナリ而シテ氏ノ水道布設費七十萬圓トセシモノ本市ノ計畫ハ八十萬圓ナリ氏カ維持費ヲ三萬圓トセシハ横濱水道維持ノ實況ヲ知ラサルニ由ルモノニシテ本市ハ殆ント其半額即チ壹万五千百拾圓ナリ以上ノ如クナルヲ以テ公債發行額ハ八十二萬圓ト知ルヘシ最モ國庫ノ補助金ハ氏ノ廿二萬圓トシタルモノ各地ノ歩合ニ應ジ本市ハ廿五萬圓ヲ五萬圓宛請求スルノ豫算ナリ又本市計算ノ水料收入額廿九年ハ貳万八千七百七十圓三十分年ハ四万三千五百五十六圓三十分年ハ五万七千五百四十一圓三十分年以降ハ毎年七万貳千三百拾九圓ナリ此水料收入豫算タル最モ低度ヲ主トシ水料金ノ如キ各地ヨリ二三割甚シキハ四五割ヲ低減セリ其詳細ノ計算ハ茲ニ省ク

右精査計算ノ如クナルヲ以テ本市ノ豫定ハ公債集^{下上}募初年ヨリ廿四ヶ年目ニ全ク元利ヲ償還シ尙貳萬四千四百七圓ノ殘余ヲ生スルモノナリ然ルニ氏ハ共用檢ヲ無料トシ尙自己想像ノ計算相償ハサル爲メ遂ニ本市現今市税ニ増額シ初年次年トハ三萬圓宛三年目ハ貳萬圓四年目以降貳万三千圓宛増課徴收セントスルモノナルモ市税ニ増課セントスルカ如キハ實ニ止ムヲ得サルノ窮策ナルヲ思ハサル可ラス故ニ本市

ノ計算ハ毫厘モ市税ニ増課セス隨テ市民ハ水道ノ費用トシテ豊厚ノ負擔ヲ受ケサレモノナリ依之觀是ハ桃木氏カ想像ノ豫算ハ既ニ悉ク瓦解シタルモノト見做シテ可ナラン

第十一章 水道布設新方策

桃木氏ノ本市水道布設方策トシテ掲ケタル要綱ヲ摘記スルコト左ノ如シ

- 一 水道工事費ハ金六十三萬圓トシ明治三十九年ニ起工シ全四十二年ニ竣功セントスルモノナリ
- 二 水道工事ハ前項ノ如ク明治三十九年ニ着手スルモ該工事ノ元資金トシテ國庫補助金ハ明治三十七年度ヨリ全三十七年度迄毎年貳萬圓宛二十二萬圓ノ下付ヲ請求セントスルモノナリ
- 三 水道工事ハ初項ノ如ク明治三十九年ニ着手スルモ該工事ノ元資金トシテ明治二十六年ヨリ市税ヲ増課シ明治二十六年度ニ金三萬圓二十七年年度ニ貳萬四千圓二十八年度以後毎年貳萬三千圓宛四十ヶ年度ニ壹萬八千圓宛合三十四萬八千圓ヲ徴收セントスルモノナリ
- 四 國庫補助金ト市税トヲ以テ毎年受入タル金員ハ銀行ノ定期預ケトシ年利四厘トシ之レヨリ得ル處ノ利得金拾六萬八千八百圓ナリ

五 結局收入七拾七万八千八百八圓ニシテ支出ハ七十七万八千八百八圓トス其内壹萬千貳百五十六圓ハ

山林保護費他ハ雜費及利子ト工事費等ナリ
以上桃木氏カ水道布設ノ方策ヲ一讀セハ識者ハ吾人カ説明ヲ竣クス直ニ其可否ヲ判斷セシナ

ラン豈驚クヘキノ方策ナラスヤ請フ毎項ニ就テ左ニ其要ヲ弁セシ
 第一項 桃木氏ハ水道工事ヲ今日ニ必要ト認メサルモ明治四十一年ニハ布設セサル可ラスト
 云フモノナリ十數年ノ後ニ必要ニシテ今日ニ無用視スル所以ハ殆ント解ス可カラサルノ説ト
 云フベシ但シ氏ノ工事費六十三萬圓トセシハ想像ノ罪ニシテ本市計畫ノ工事費ハ五拾五萬圓
 ト知ルベシ

第三項 桃木氏ハ水道工事ヲ今日ヨリ十數年後即チ明治三十九年ニ着手セントスルニ拘ハラズ
 國庫金ノ補助ハ豫テ銀行ヘ預ケ入其利金ヲ收得セン爲メ之レカ元資金トシテ明治二十七年度
 ヨリ下付セラレシコトヲ請求スルモノナリ既往ノ經歷ヲ鑑ミルニ我政府ハ現ニ其工事ニ着手セ
 ントスルモノスラ尙國庫補助ノ容易ニ詮議ヲ決セサルニ氏ノ方策ノ如キ悠々緩々タル今ヨリ
 十數年ノ後漸ク初メテ起工セントスル未來ノ工事ニ對シ今日猶國庫ノ補助ヲ許シ毎年之ヲ下
 付スルコトハ到底爲サ、ルベシ何ントナレハ國民力義務トシテ租稅ヲ負擔セル原理ニ違背スレ
 ハナリ若シモ政府ノ之ヲ許容スルアラハ政府ハ租稅ヲ濫用スルモノト斷言スルヲ憚カラス故
 ニ斯ノ如キ處置ハ國民トシテモ又默止ス可カラサルモノナリ

第三項 桃木氏ハ未來ノ工事ニ對シ今日ヨリ年々數萬圓ヲ尙市稅ニモ増課徴収セントスルモ
 前項ト全シテ後世ノ工事費ヲ現世ニ負擔セシメルノ理山アル可カラズ抑モ氏ハ租稅ノ性質ナ

弁識セサルモノト云ハサルヲ得ズ我市民ハ斯ノ如キ無法ナル納稅ノ義務ヲ尽ムモノ或ル人ヲ
 除ノ外殆ント一人モアラサルヘシ況ンヤ氏ハ市稅ニ幾許ノ餘裕アリト認メシカ一方ニハ本市
 將來ノ教育衛生道路勸業ノ改良進歩ヲ望ミナカラ何時モ直ニ市稅ノ增加ヲ企ツルモノナリ殊
 ニ斯ル緩漫極マル未來ノ工事ニ向ヒ市民ノ血稅ヲ利知ノ元資ニ供セントスルニ至テハ謬妄ノ
 甚シキニ驚カラザラントスルモ能ハサルナリ

第四項 ハ前項ニ解説スル如クナルヲ以テ其目的ヲ達スルモノニ非ス

第五項 ハ前各項ニ依テ自ラ瓦解タルコトヲ知ルヘシ

第十三章 葺合部水利

桃木氏ハ水利使用ノ權ヲ田地持主及水車持主等ヘ代價ヘルモ之レヲ不殘本市水道ヘ收用スル事ハ市内
 各部ノ間柄ニ於テ不公平ナリト思フ依テ現今ノ流量ヲ幾許手從來ノ如ク葺合部ヘ分水スルヲ以テ當
 然ノ措置ナリト云ヘリ

桃木氏カ立論ノ趣意漠然トシテ解ス可ラスト雖モ要スルニ水利ヲ他ニ收用ノ爲メ補償スルモノ氏ハ田地
 水車ノ持主ニ限ルモノト速了セシナラン然レモ本市ハ之レカ補償金ノ分配ヲ受クルモノヲ指定シタルニ
 非ス水利ヲ他ニ收用スルニ據テ生スル直接ノ損失ヲ積算セシニ止マレリ而シテ市内各部ノ間柄ニ於テ
 不公平ナリトスルハ其意那邊ニアルカハ推知スルヲ得スト雖モ又葺合部ヘ幾千カ分水スルヲ當然ノ措置

下云フニ至テハ前段ニ依テ水解スルニ足ルト認ム加フルニ布引瀧谷ノ溪水ハ給水事業ノ爲メニ常ニ悉ク引用スルモクニ非ス就中夏氣耕地ニ必要ノ時季ハ降雨最モ夥多ナレハ隨テ分水ノ多量ナルハ敢テ疑ハサル所ナリ故ニ水道布設以後ト雖モ總許平溪水ヲ從前ノ葺合部落ニ受用スルハ勿論有之事トス唯給水事業ニ於テハ万一チ憂ハ種々調査計算ヲ起スト雖モ溪流ノ涸渴ヲ告ケル場合ハ屢々アルモノニ無之偶々非常ノ旱魃ニ遭遇スルモ耕地ニ不用ナル時季即チ降雨僅少ノ秋季ニ於テ之ヲ觀ルト多シ況ンヤ神戸全市ノ人口拾五万人ニ殘ラス給水スルトシテ豫算スルモノナレハ給水ヲ受クルモノ、少數ナルハ自ラ消費水量ノ僅少ナルヲ以テ溪水ハ常ニ餘裕アリト信スルモノナリ

第十四章 貯水池

桃木氏ハ布引瀧水ヲ葺合部ヘ分與スル時ハ數個ノ貯水池ニ雨水ヲ蓄藏シ置キテ供セハ可ナルモノ、如シト雖モ此貯水池タルヤ給水改良事業ニ就テ余リ策ノ得タルモノニアラス先年横濱野毛山貯水池ニ小虫ヲ生シ夫レカ爲メニ貯水池ニ屋根ヲ設ケタルモ布引瀧與ニテハ屋根等ヲ築造スルト天災ノ憂モアレハ容易ノ業ニアラサルハシ故ニ山林ニ樹木ヲ培養シ貯水池ヲ要セスシテ天然ノ良水ヲ得ヘシト云フニ外ナラス

桃木氏ハ葺合部ヘ分水ノ爲メ數個ノ貯水池ニ雨水蓄藏ノ必要ヲ説クモ右等分水ハ前章ニ解示スルカ如ク自然ノ餘水ヲ興フルニ外ナラス而シテ本市計畫ノ尙貯水池ヲ必要トスル所以ハ萬一ノ豫備ニシテ非常ノ旱

魃ニ遭遇スルモ供給水量ニ欠乏ヲ生スルカ如キ恐レナキヲ保スルモノナリ然ルニ横濱野毛山ノ貯水池ニ小虫ヲ生ゼシトノ引例ヲ以テ數里深奥ノ山間ニアル貯水池ニモ此ノ恐レアリトスルハ實ニ妄想ノ甚シキモノト認ム加フルニ貯水池ノ名稱ハ一ナリト雖モ横濱ノ貯水池ハ本市ニ於テ淨水池ト稱スルモノニ適シ人家接近ノ地ニ設ケアルモノナリ彼レト此レトハ同一ノ論ニアラス如何ントカレハ本市カ將來ノ貯水池ト特ム山奥數個在來溜池ハ固ヨリ屋根ノ設ケナキモ氏ノ云フカ如キ恐レアリシカ過ルニ二十五年二月水第二号報告ニ就テ其水質ノ純真潔白ナルヲ証スルニ充分ナラント信ス若シ夫レ山林ニ樹木ヲ培養シ水源涵養ノ策ニ至テハ疾クニ本市ノ計畫企圖スル處ニシテ幾日細密實査ヲ遂ケルモ亦茲ニアリ敢テ氏ノ辨ヲ竣テ後チ知ルニアラス然レト樹木培養ノ功ヲ奏シ果シテ源水ノ増加ヲ見テ貯水池ヲ要セサルニ至ルノ日ハ今ヨリ幾十年ノ後チナルカ實ニ思ハサルノ甚シキモノト云ヘシ

第十五章 補償金配當

桃木氏ハ水利ヲ本市ヘ收用スルニ當テ田地地主及水車持主等ノミニ手當ヲ給與スルカ如キハ不公平ノ處置ト思惟ス依テ其水利權ノ代價ヲ給與セントナラハ此一般系統的住民ニ代償物ヲ給與セント云ヘリ桃木氏ハ本論ノ外ニ水利ヲ收用スル爲メ直接利害ヲ蒙ルモノハ地主ヨリモ小作人ノ方損害ヲ蒙ルト甚シトシ田畑收得比較表ヲ添付セリ然ルニ本市カ水利ヲ收用スルニ當テ直接蒙ル損失高チ調査シタルハ本市カ出金ノ費額ヲ認メタルニ止マリ配當者ノ誰彼ヲ指定セシニ非ラスト云フト已ニ第十三章葺合部水

利ノ部ニ審ナルヲ以テ再ヒ茲ニ辨スルノ要ナシ然レモ氏ノ田畑收得比較表ノ如キハ實ニ本市モ之ヲ調査セリ唯之ヲ真正確實ト認ムルト能ハサルモノアルカ故ニ本市ハ斯ノ如キ比較ヲ採用セザリシナリ氏ハ本市ガ不用トセシモノヲ茲ニ掲ケ以テ喋々スルモノナルコトヲ附言シ置カントス

第十六章 山林寄附

桃木氏ハ神戸部共有山林ハ何等用役ヲ爲サス今之ヲ市有ニ移サハ本市將來ニ大用役ヲ爲スモノナレハ直ニ水道ノ利益ヲ受クル神戸部民ハ之ヲ市ニ投棄スヘシ又貸合部モ耕地ニ於テ水利ノ必要アリ然レモ幾年ノ後ニハ市街地トナリテ多量ノ水ヲ要セサルコトニナラン然ルルハ隨テ山林所有ノ必要モアラサレハ神戸部ト今様市ニ投寄セシコトヲ希望セリ

桃木氏ハ山林培養ハ本市水利上ノ必要ノミナラス本市將來ノ基本財産トシテ所有スルモ大ニ利益アリト認ムルモノナリ然レモ之ヲ神戸部貸合部ニ於テ所有スルニ此ノ利益ハナキカ市有ト部有トヲ問ハス培養方法ヲ設クルト如何ニアルコトヲ知ラハ其所有ノ何レヲ問フヘキニアラサルヤ勿論ナリ神戸部貸合部民ノ他日之ヲ市有ニ移サントノ義讓ヲ視ルカモ知ルヘカラスト雖モ公然紙上ニ投寄ヲ論シ否ナ已ニ之ヲ投寄シタルモノトシテ氏ノ水道布設方策中ニ山林保護費ヲ見込ミシカ如キハ大早計ト云フヘシ而シテ氏ハ此他ニ一個人持ノ山林及水源ニ關係アル他郡村ノ山林ハ時價相當ノ價格ヲ以テ市ニ買收スベシト云ヒ氏ノ水道布設費中ニ其費額ヲ掲出セサルハ初メヨリ云フベクシテ行フ能ハサルガ爲メカ或ハ亦脱漏セシモノナ

ラン之ヲ要スルニ本問題ノ如キ水道トハ別途問題ニシテ本市ハ山林培養ノ必要ヲ認ムルモ之ニハ適當ノ方法ヲ求メ經濟ノ如何ヲ考究スヘキモノト信スルカ故ニ此他ノ事ハ輕々茲ニ其是非ヲ論セサル所以ト知ルヘシ

第十七章 水利收用ニ係ル代償方法

桃木氏ノ代償方法ヲ述フルモノ左ノ要旨ニ外ナラス

- 一 瀧谷ノ流水ハ明治三十九年ニ於テ布設スル本市給水用ニ收用スヘキニ付貸合部道路開闢費途ヘ水道費ヨリ幾万圓ヲ支弁セントスルコト
 - 二 前項代償金ヲ以テ直ニ道路ヲ開闢シ農墾地ヲ市街地トナサシメ用水量ノ減却ヲ計ルコト
 - 三 前兩項ノ方法ニ據レハ地主小作人等部民ニ利益ヲ與ヘ水道給水上收入ヲ増シ部民ハ給水事業ノ德澤ヲ受ケ水道費負擔ノ義務モ異議ナク諾スト云フニアリ
- 右ハ氏ノ一舉兩得ノ策ト云ヒシモノナリ

桃木氏カ代償方法ノ第一項第二項ハ貸合部ニ有スル要償權ト本市カ水利收用ニ就テ補償スヘキ義務トヲ混シタルモノト云ヘシ之ヲ要スルニ氏ノ方法ハ寧ロ權利者タル貸合部ニ於テ他日補償金ヲ受領セシ以後全部民トシテ其處分ヲ定ムル場合ニ望ムヘキモ之ヲ本市ノ代償法トセシハ大ニ誤リナリ仮リニ歩ヲ讓ルモ若シ貸合部ニ於テ道路開闢ニ應セサルルハ何レニモ之ヲ執行セシムル權利アルヘカラス果シテ然ラハ

水利收用ノ補償金ハ如何スルヤ氏カ責任ナキ言論モ亦甚シ第三項ノ如キハ前各章ニ於テ本市補償ノ方法
ト水増費ヲ市民ニ賦課セサルヲ知ラハ本項ハ遂ニ自滅シタルモノトス

第十八章 水道ノ緩急

桃木氏ハ今直ニ市公債ヲ發行シテ上水工事ヲ起セハ市民其負擔ニ堪ヘスシテ其局終ニ下水ノ改良工事
ヲモ施ス能ハサルノミナラス本市將來ノ教育、衛生、道路、勸業、其他一切ノ市行政ノ進歩ヲ停止スルニ
至ランヲ恐レ猶本市ノ爲メ改良ヲ計ルヘキヲハ上水下水ノ改良ノミニアラス港灣ノ改良道路ノ改良
公園ノ改良之レ孰レモ必要ノ改良策ナリ之レ等ノ改良策ヲ圖ラスシテ徒ニ本市ノ發達ヲ望ミタレハト
ニテ何ノ詮カアレント云ハリ

桃木氏ハ本市水道計畫ノ實況如何ヲ審ニセス然レモ其水道費ハ幾千カ市税ニ増課スルモノト誤想シ遂ニ
教育其他ノ行政進歩ヲ防止スルモノト云フニ外ナラス本市計畫ノ一斑ハ己ニ前各章ニ詳述スルカ加ク水
道費ニ關シテハ毫厘モ市税ヨリ徵收スルコトナキハ全ク氏ノ想像スルモノト異ナレリ果シテ然ルハ今マ
之ニ關シ多辨ヲ用ユル必要ナキモ氏ハ緩漫ノ水道論者ト認ムルヲ以テ東京市區改正ノ事業ニ關シ芳川元
委員長カ演說ノ内ニ參考ニ與フヘキ適切ノ要点ヲ左ニ摘記シテ辨明ニ代ントス

抑モ道路ヲ擴開シ或ハ家屋ヲ改造シ或ハ河川ヲ浚鑿シ或ハ公園ヲ改造シ或ハ橋梁ヲ架設スル等ノコトハ市
民ノ商業上ニ取り衛生上ニ取り其他百般ノ關係ニ取り均シク必要ナルニ相違ノアルベキ筈ナシト雖モ其

中最モ必要ニシテ一日モ忽ニスベカラサルモノハ上水下水ノ改良是レナリ惡疫ヲ豫防シ衛生ヲ進ムルタ
メニハ上水下水ノ改良ヲ措キ他ニ良法アルヘキヤ成程道路ヲ擴開シ車馬ノ運搬ヲ便ニシ家屋ヲ改築シテ
火災ノ憂ヲ防キ河川ヲ浚鑿シテ運溜ノ用ニ供スルハ勿論必要ナルコトナレモ畢竟市民カ健康ノ身ヲ以テ生
活スル以上ノ事ナリ若シ市民ノ健康其常ヲ保ツト能ハズ「チブス」或ハ「コレラ」其他惡疫ノ流行アル毎ニ
數万ノ市民ハ直ニ其慘毒ニ罹リ其生命財產共モニ蕩尽シ去ラハ備々乎トシテ一日モ其生ヲ安ニスルコト能
ハサルカ如キアテハ折角開鑿シタル河川モ改造シタル家屋モ何ノ効用ヲカ爲スヘキヤ是レ委員會カ改
業ノ設計ヲ議スルニ當リ水道下水ヲ先ツ第一位ニ置キタル所以ナリ云々
正事桃木氏ヨ上文克々之ヲ熟視セラレントヲ望ム

明治廿六年二月四日印刷
全年全月全日出版

兵庫縣神戸市福原町七十六番屋敷平民
著作兼發行者 友成徳次郎
全縣全市西柳原町八十七番屋敷平民
全上 加藤治郎兵衛

全縣全市峰合村千九十四番屋敷平民

全上 瀧本甚右衛門

全縣全市元町六丁目四十二番屋敷平民

全上 爲田喜兵衛

全縣全市古湊通三丁目百二十三番屋敷平民

全上 高德藤五郎

全縣全市下山手通六丁目五百十七番屋敷平民

全上 村上五郎兵衛

全縣全市江川町三十番屋敷平民

全上 上田榮次郎

全縣全市峰合村千六十四番屋敷平民

全上 山本繁造

全縣全市下山手通六丁目五百十七番屋敷平民

印刷者 村上五郎兵衛

5/36

法
76

